

まごころ

＝ともに生きる暮らしをめざして＝
特定非営利活動法人
尾張地域福祉を考える会まごころ
まごころ訪問介護事業所
NPO法人まごころ児童デイ

No.62. チェック介護保険・支援費

来年4月から実施される改正介護保険制度
予防介護重視型システムへ

◆総合的な介護予防システムの確立

①新予防給付の創設

・「対象者」現行の要支援者と要介護1の一部の方。・「内容」既存のサービスの見直し/新たなサービスの導入。

②地域支援事業の創設

・「対象者」要支援、要介護になるおそれのある方。
・「内容」転倒骨折予防支援や栄養指導などのスクリーニングの実施/介護予防サービスのマネジメント/相談事業やケアマネージャーへの助言/地域ネットワーク作り/家族支援/介護給付費適正化事業など。

◆その新予防給付のマネジメントは

・市町村が責任主体とし設置した「地域包括支援センター」で実施。
・客観的、中立的なマネジメントの実現。
・介護予防プラン作成者
包括支援センター構成員の保健師で、
①アセスメント→②プラン作成→③事後評価、まで行う。

◆既存サービスの見直しについて

・新予防給付サービスの柱は通所、訪問、福祉用具の三大サービスを焦点に見直しとし、介護予防サービスの主軸は通所(デイサービス)となる方向が出されました。
・高齢者が家から出て、社会性の向上と日常生活を活性化、廃用症候群の予防・改善を図ることを目的とし、リハビリとして施設内に台所など設置、調理や配膳等がスムーズに行えるよう在宅生活にいかされるサービスが提供されるようです。

・訪問介護では、生活機能の維持や向上の観点から内容、提供方法、期間などの見直しがされます。原則として、適正なケアマネジメントに基づいて、独居や要介護者同士の夫婦の利用者が行うことが出来ない家事、同居家族の支えや地域の支え合い等他の代替えサービスがない人の家事援助は今まで通り可能になります。
・また、通所の日常生活支援にあたる共通サービスや介護予防の訪問介護では、身体介護や家事援助を一本に統一し、時間単位の出来高払いから、月額定額払いとすることも検討されています。

◆新しいサービスの導入について

・新メニューは、運動器の機能向上/栄養改善/口腔機能向上等
・通所サービス等の一環として実施。
・通所での利用者の選択的サービスで強制的なものではない。
効果が明確なサービスについて、モデル事業等を踏まえ、導入。

◆地域包括支援センターとは

新介護予防のマネジメントを行う包括支援センターは、人口3万人程度に1カ所置くことになっています。包括支援センター構成員は、社会福祉士/保健師/主任ケアマネージャー3職種が共働して対応。社会福祉士は総合相談窓口の役割、介護予防のケアプランは保健師が担当、困難事例のサポートを主任ケアマネージャーが担当、医師会との連携を図る等、孤立しがちなケアマネージャーをサポートする。
また、地域包括支援センターをチェックしていく運営協議会を、市町村が責任をもって設置・運営していかなければなりません。運営協議会のメンバーは、利用者をはじめ様々な関係分野から。
一宮市では、新予防給付や包括支援センター設置など、具体的に決まっていないようです。



《報告》一宮市委託・介護予防講座 自立支援教室終了

外に出る大事さ/ふれあう嬉しさ/
学ぶ・学び合う大切さ/音にふれる楽しさ

二日間にわたって行われた、介護予防講座・自立支援教室は、本当の意味での自立に向けた講座とすることが出来ました。

■今回は、講師陣もユニークで、第一日目の手作りうどんでは、定年退職されたグループ「イキイキライフさん」の指導。第一線を離れられた方々が第二の人生を自身の持てるノウハウで地域の皆さんに貢献されている姿を目の当たりにし、受講生も「生き方」をも学ぶこととなりました。

■午後の野外での運動は、知らない間に時間が経過するほど、西川先生の指導は的確でほどよい汗と疲れが心地よいものでした。
体を動かすことの気持ち良さを戸外だからこそ余計に感じられました。

■二日目の「体の自立と予防」では看護師の山口陽子さんから日常生活での観察、注意をいただきました。
・自身の便の色、尿の色を知る。
・薬は勝手に中止しないこと。
・肥満はすべての病気の引き金に。

・自身の血圧の把握を。
・いつもと違う体調や様子の変化を見逃さない。

・自立とは足りない部分を補うこと。機能障害も、補足するものでクリアすれば自立へ。

・転んで骨折は、握力がなかったため。自身死に方を選択すること。ひいては生き方を選択すること。

■午後の「唄って、奏でて」では、声を出し、リズムにふれる、音の持つ魅力なのでしょいか、恥ずかしかった小さな声がだんだんと大きく、元気に変わりました。「音楽はいいね」この感想ですべてでした。

二日間の自立支援講座は、「楽しい時間をありがとう」と受講生の皆様からいただく講座となりました。



第五回一宮市地域福祉
ネットワーキング会議開催
地域福祉と住民の集い
地域で安心して過ごすために

去る十月一日、木曾川公民館にて第五回「地域福祉を住民と考える集い」が開催されました。この集いは、これまで旧木曾川町で毎年行われてきたもので、地域福祉を行政と地域の住民との協働で考え、さらに、地域で集うサロン活動の実現に結び付けた集いでもあります。この日の集いでは、「閉じこもらないで外に！」と題し、中日新聞の高間睦さんの講演、木曾川町地域のサロン発表、「広げようサロン 生きがいづくり」と題したシンポジウムなど、住民が作るサロンの必要性が語られました。来年四月からの介護保険制度改革の中で、「地域支援事業の創設」が大きな柱になっています。まさしくこのサロンはその地域支援事業に当たると思われます。健康で自立した暮らしをしていくために、ふらっと立ち寄れる安心な場所が地域にあれば、孤独におちいることもなく、馴染みの中で住み続けることが出来ることとなります。
サロンは、サロンをひらく人、参加する人、ここに集まる人、すべてが元氣なれる場所「広げよう！サロンを」みんなまで。